

企業の意識改革が必要

働きたいけど働けないママたち

マミーゴー



荻野社長

新しい労働力を探す企業と新しい働き方を望む主婦・ママたちをつなぐ事業を展開しているマミーゴー（荻野久美子社長、東京都港区）。

荻野社長は「運送会社には3Kのイメージがあって、ママたちが手を挙げるのはなかなか難しい。しかし、結婚、出産、育児をすると仕事への距離感や捉え方が変わります。それに適応した仕事を提供したいと考えたと、その課題の一つが物流だと考えています」という。

「働きたいけど働けないママはたくさんいます。企業が働く環境やスタイルを変えられることで、そのママたちを戦力に変えることができま

す。昨年1年間、それほど全員が配達員にはの思いで進めてきましたが、前には進みましたが、前には進みませんでした。抱っこひもをしたママがベビーカーを押す感覚で荷物を運ぶという提案です。1日に3つか4つしか運べなくても、何百人のママが動けば大きな力になります。しかし、交通事故やケガの問題などを指摘されました。中には子どもが3歳になるまで母親は家にいた方がいい」という考え方の企業もありました」と話す荻野社長。

「託児所も素晴らしいツールですが、企業の意識改革が必須です。ママたち2000人にアンケートをしたのですが、ほとんどのママが配送員にはなりたくない」と答えました。しかし、子どもと一緒に働きたいというママは80%いました。働き方を変えることができれば、いままで潜在化されたママが顕在化されます。企業が働く時間に融通性を持たせることによって、もっともっと入ってくる人が増えます。これから置き配がもっと普及すれば、配送そのものが簡素化されるはずなんです。これは追い風だと思います。」

「託児所も素晴らしいツールですが、企業の意識改革が必須です。ママたち2000人にアンケートをしたのですが、ほとんどのママが配送員にはなりたくない」と答えました。しかし、子どもと一緒に働きたいというママは80%いました。働き方を変えることができれば、いままで潜在化されたママが顕在化されます。企業が働く時間に融通性を持たせることによって、もっともっと入ってくる人が増えます。これから置き配がもっと普及すれば、配送そのものが簡素化されるはずなんです。これは追い風だと思います。」